

平成29年度 政策評価表

総合計画体系	まちづくりの目標	6 生涯にわたる学びのまち	評価担当部	政策推進部	
	政策	6-1 次代を担う人を育むまちづくり	関係部	学校教育部	
	施策	6-1-1	学校教育の推進		
		6-1-2	教育環境の充実		
		6-1-3	高等学校教育の推進		
6-1-4		高等教育の充実			

1. 政策の基本的な考え方

市民が生涯を通して学び、知識や経験を人生やまちづくりに活かすことができる地域づくりが必要です。
 政策6-1では、将来を担う子どもたちが、社会の中でたくましく生きていく力を身につける学校教育の推進や、高等教育の充実に向けた取り組みをすすめ、次代を担うたくましい人を育むまちをつくりまします。

2. 政策の総合評価

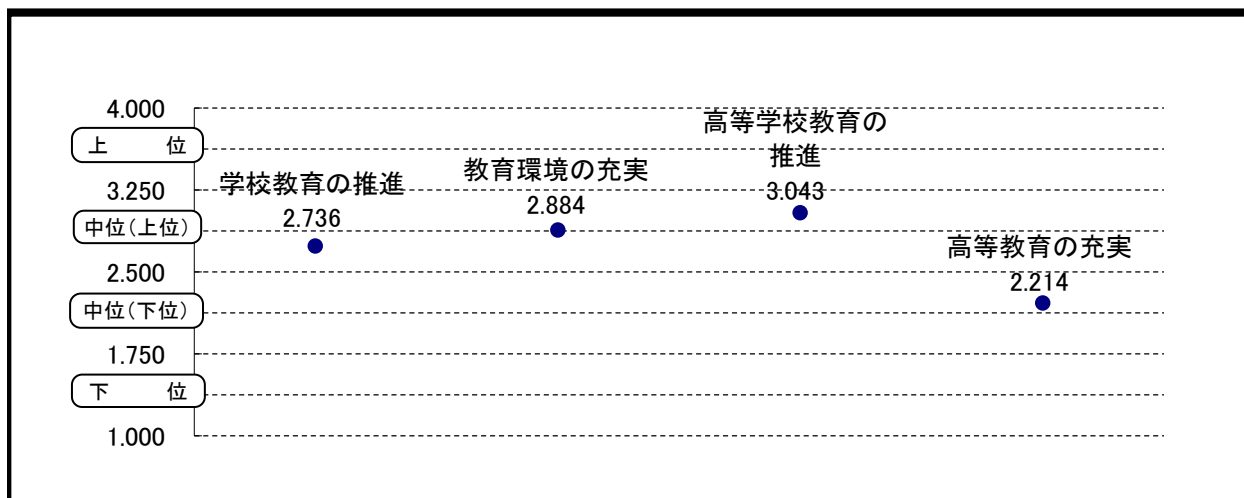
市民実感度は、「学校教育の推進」、「教育環境の充実」、「高等学校教育の推進」がいずれも中位(上位)にありますが、「高等教育の充実」は中位(下位)にあります。
 学校教育の推進については、基礎学力や体力の向上、豊かな心の育成に向けた授業改善をすすめるとともに、幅広い資質を身につけた教師の育成をはかるほか、教育相談体制の充実に努め、不登校の未然防止や早期解決に向けた取り組みをすすめていく必要があります。
 教育環境の充実については、特別な配慮を要する児童生徒に対し、適切な支援や教育を行うため、体制や環境の整備をすすめていく必要があります。
 高等学校教育の推進については、市内中学校卒業生が市内高校に進学できるよう、情報収集や要望活動を行っていくほか、帯広南商業高等学校においては施設等の老朽化に適切に対応しながら、良好な教育環境の維持に取り組む必要があります。
 高等教育の充実については、地域の将来発展に必要な人材像について整理を行い、人材育成の仕組みや新たな大学等の整備に関する具体的な方向性を整理していく必要があります。

3. 政策を構成する各施策の総合評価結果一覧

政策を構成する施策		
6-1-1	学校教育の推進	B
6-1-2	教育環境の充実	A
6-1-3	高等学校教育の推進	A
6-1-4	高等教育の充実	C

※各施策の総合評価の詳細については、次頁以降の施策評価表をご覧ください。

4. 政策を構成する各施策の市民実感度の散布図



※この図の市民実感度は、市民の皆さんの回答を加重平均で表した数値です。

※市民実感度は、1.000～4.000の間の数値で表され、中間値が2.500となります。

※各施策の市民実感度の詳細については、次頁以降の施策評価表をご覧ください。

平成29年度 施策評価表

総合計画体系	まちづくりの目標	6 生涯にわたる学びのまち	評価担当部	学校教育部
	政策	6-1 次代を担う人を育むまちづくり	関係部	
	施策	6-1-1 学校教育の推進		
	施策の目標	地域の特性や学校の創意工夫を活かしながら、確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成など、子どもたちの生きる力を育む教育をすすめます。		

1. 成果指標による判定

成果指標	単位	H28(実績) H28(目標)	判定	実績値の年次推移
1 標準学力検査の目標基準到達観点点数	観点	37 39	b	
2 小学校図書館の児童1人当たり貸出冊数	冊	16.0 10.9	a	
3 中学校図書館の生徒1人当たり貸出冊数	冊	3.8 2.1	a	
4 不登校生徒の復帰率	%	28.6 57.5	d	
5 学校給食における地場産野菜の導入率	%	48.3 68.9	d	
6 教職員1人当たりの研修受講回数	回	3.3 2.8	a	
成果指標による判定			b	

※成果指標4については、H27の実績(目標)値です。

2. 成果指標の実績値に対する考え方

「標準学力検査の目標基準到達観点数」は、前年に比べ1観点減少し、目標値を下回りました。全国平均と比較すると家庭での学習時間が少ない傾向があることなどが要因と考えます。

「小学校図書館の児童1人当たり貸出冊数」と「中学校図書館の生徒1人当たり貸出冊数」は、それぞれ目標値を達成しています。

「不登校生徒の復帰率」は、前年に比べ5.8ポイント減少し、目標値を下回りました。不登校には様々な要因があるため、一人ひとりに応じた個別の教育相談体制や児童生徒だけではなく保護者への相談体制の充実に努めてきましたが、復帰に至らなかったケースが多かったことが要因と考えます。

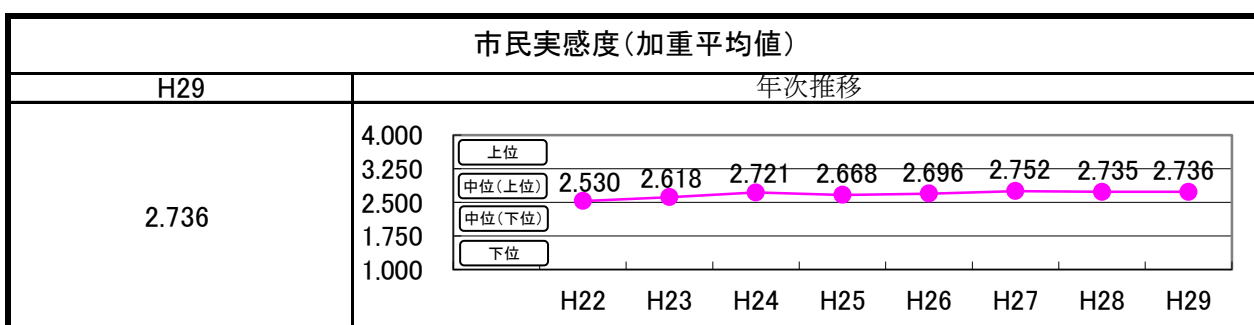
「学校給食における地場産野菜の導入率」は、前年に比べ5.4ポイント減少し、目標値を下回りました。長雨や台風の影響などから地場産野菜の収穫量が減少し、使用量が限定されたことが要因と考えます。

「教職員1人当たりの研修受講回数」は、前年と同数で目標値を達成しています。

3. 市民実感度による判定

設問	小学校・中学校において充実した教育が行われている		0	25	50	75	100
	回答	H29					
		回答数	構成比				
1	そう思う	97	13.1%	13.1			
2	ややそう思う	352	47.6%	47.6			
3	あまりそう思わない	180	24.3%	24.3			
4	そう思わない	48	6.5%	6.5			
	無回答	63	8.5%	8.5			
	合計回答数	740	—				

上記の回答で3(あまりそう思わない)または4(そう思わない)を選んだ理由	H29	
	回答数	構成比
a 子どもの学力が低下しているから	31	14.4%
b 子どもの体力が低下しているから	17	7.9%
c 子どもの道徳心が育っていないから	50	23.1%
d 教師の指導力が不足しているから	70	32.4%
e その他	48	22.2%
有効回答数	216	—



市民実感度による判定

b

4. 市民実感度調査結果に対する考え方

市民実感度は、「そう思う」と「ややそう思う」の合計回答数の割合が60.7%となっており、中位(上位)にあります。基礎学力の定着に向けた授業改善がすすんでいることや、家庭と連携した学習の取り組みが一定程度市民に評価されたものと考えます。

一方で「そう思わない」と「あまりそう思わない」を選んだ理由としては、「教師の指導力が不足しているから」が最も多く、次いで「子どもの道徳心が育っていないから」となっています。教師の指導力向上や道徳心の育成に対する期待に十分に答えられていないことが要因と考えます。

5. 施策の総合評価

成果指標による判定	b	市民実感度による判定	b
施策の成果を表す客観的なデータ(成果指標以外)	平成28年度全国学力・学習状況調査の結果		
<p>成果指標による判定、市民実感度による判定は、いずれも「b」判定となっています。</p> <p>施策の主な取り組みとしては、指導主事による年間3回の学校訪問において、学校全体で学びのルールや家庭学習のきまり、ノート指導の統一などに取り組むことにより、学校力と教師一人ひとりの指導力向上に努めるよう、管理職や教職員に対し指導・助言しているほか、主に小学校の教職経験が10年未満の教師を対象に学力向上推進プロジェクトチームによる学級経営・授業改善ワンポイント講座を開催し、教師の指導力向上に努めています。また、教職員が市外で開催される研修にも参加することなどにより、日頃から授業改善や自己の資質の向上に取り組んでいます。</p> <p>施策の成果を表す客観的なデータである「平成28年度全国学力・学習状況調査の結果」から、中学校では前年と比べ基礎的な力を問われる国語Aと応用力などを問われる国語Bにおいて全国平均との差が広がっているものの、数学Aでは全国平均を上回っています。また、小学校においては、すべての科目で全国平均を下回りましたが、前年と比べて、全国平均との差が縮まるなど、改善の傾向がみられます。</p> <p>一方で、不登校生徒の復帰がすすんでいないことなど、成果に結びついていない部分もあります。以上の状況を総合的に勘案し、施策は目標に向かって、ある程度すすんでいると評価します。</p>			
目標に向かって、ある程度すすんでいる		B	

6. 施策の課題と今後の取り組み方向

課題	<p>中学校では、全国学力・学習状況調査において4科目中2科目で全国平均との差が広がるなど、基礎学力の定着が十分ではないことが課題となっています。</p> <p>また、不登校の未然防止や早期解決に向けた取り組みをすすめています。原因の多様化、複雑化に伴い、学校への復帰がかなわない事例が多くなっていることも課題となっています。</p> <p>さらに、学校教育法の改正により「義務教育学校」の設置が可能となるなど、義務教育9年間を通じた継続的な教育の取り組みが全国的にすすめられており、本市においても小中一貫教育の導入等について検討を行っていく必要があります。</p> <p>学校給食における地場産野菜の導入については、天候などの要因に影響されやすい面があるものの、地元食材に対する理解を深める上で重要であることから、導入拡大に向けた取り組みをすすめていくことが必要となっています。</p>
今後の取り組み方向	<p>基礎学力や体力の向上、豊かな心の育成に向けた授業改善をすすめるとともに、指導主事による学校教育指導訪問や公開研究会における教育情報の提供、指導助言をすすめるなど、専門職としての確かな知識、豊かな人間性や社会性などの幅広い資質を身につけた教師の育成をはかります。</p> <p>また、不登校の未然防止や早期解決に向けて、一人ひとりに寄り添った教育相談体制の充実に努め、本人や家庭、関係機関との連携をはかりながら、取り組みをすすめるほか、小学校と中学校が互いに協力し義務教育9年間の系統性に配慮した教育活動を行う小中一貫教育の導入について検討をすすめます。</p> <p>地場産野菜の導入拡大に向け、地元の野菜生産者からの端境期における野菜の提供充実にほか、今後も関係部署と連携しながら取り組むとともに、新たにアンケートによる子どもたちへの嗜好調査を実施し、より取り組みやすい食育の環境づくりに努めます。</p>

(参 考) 基本事業の取り組み内容

基本事業名	平成28年度の実績
(1) 確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学校指導訪問において「少人数指導推進事業」における効果的な指導についての指導・助言 ・外国語指導講師を小学校および中学校に派遣 ・「Obihiroサマーイングリッシュ・ウインターイングリッシュ」の開催(夏4会場、冬4会場) ・「おびひろっ子絆支援事業」、「おびひろっ子学び支援事業」を市内40校で実施 ・「おびひろっ子絆支援事業」、「おびひろっ子学び支援事業」のパネル展を市民ホールで開催 ・「帯広の子どもの学力」作成(平成28年7月紀要として発刊) ・基礎・基本定着から活用力の育成のためのデータベース教材作成(小・中学校算数・数学:全国学力・学習状況調査の算数・数学B問題に対応・平成29年3月に、クラウド型サーバーシステムに保管し、各学校においてダウンロードして活用) ・教育用パソコンの活用(パソコン室 1,464台、クラス用 41台、合計 1,505台)
(2) 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土体験学習(市内小学校4年生対象)26校 ・自然体験学習(市内中学校対象)14校 ・ふるさと学習農園(市街地学校対象)2校 ・こころの教室相談員(6名)、家庭訪問相談員(5名)、スクールソーシャルワーカー(2名)の配置 ・適応指導教室の開設(専任指導員1名、助手1名体制で帯管協ビルに開設)、教育相談員の配置(学校教育指導室)、いじめ・不登校・非行等に関する対策委員会の設置 ・全道吹奏楽コンクール派遣(53人)、全道合唱コンクール派遣(34人)、全道演劇発表大会派遣(21人) ・図書資料の整備・充実4,132冊、総貸出冊数144,563冊、総蔵書冊数319,400冊、ぶっくーる便の利用 420件(14,700冊)、司書教諭の配置28校に28名
(3) 健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「帯広らしい食育プログラム」の作成と食育出前授業の実施(小学校144学級、中学校9学級) ・食育推進のための啓発活動:「食育レシピ集」の作成及び市内小中学校児童生徒への配布(1回) ・食に関する指導を推進する教師の指導力向上等:「食育講演会」の開催(1回) ・中学校体育大会派遣347人(引率者含む)、参加大会数23、北海道中学校水泳大会開催地補助(参加者535人) ・地場産冷凍人参、農業高校のジャガイモ、地元生産者からのマッシュルーム、リーキ、ハウス栽培のほうれん草などを給食で使用
(4) 教師の指導力の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教員リーダー育成講座(参加延べ人数161人、開催回数3回) ・長期休業中教員研修講座(夏季参加延べ人数313人、冬季参加延べ人数323人 夏季冬季各5日) ・パソコン講座参加人数(延べ945名、41回) ・教職員1人当たりの研修受講回数(3.3回) ・中央教育課題思潮等調査研究事業(福岡県1名、東京都1名、秋田県秋田市課題別研究推進研究会1名) ・公開研究会実践校(21校)

平成29年度 施策評価表

総合計画体系	まちづくりの目標	6 生涯にわたる学びのまち	評価担当部	学校教育部
	政策	6-1 次代を担う人を育むまちづくり	関係部	
	施策	6-1-2 教育環境の充実		
	施策の目標	学校施設の整備をすすめるとともに、学校、家庭、地域が連携して、子どもたちが安心して生き生きと学ぶことができる教育環境づくりをすすめます。		

1. 成果指標による判定

成果指標	単位	H28(実績)	判定	実績値の年次推移
		H28(目標)		
1 小・中学校校舎の耐震化率	%	100.0	a	
		79.1		
2 特別支援学級の設置数	学級	78	a	
		59		
3 学校支援ボランティアを活用した学校数	校	40	a	
		28		
成果指標による判定			a	

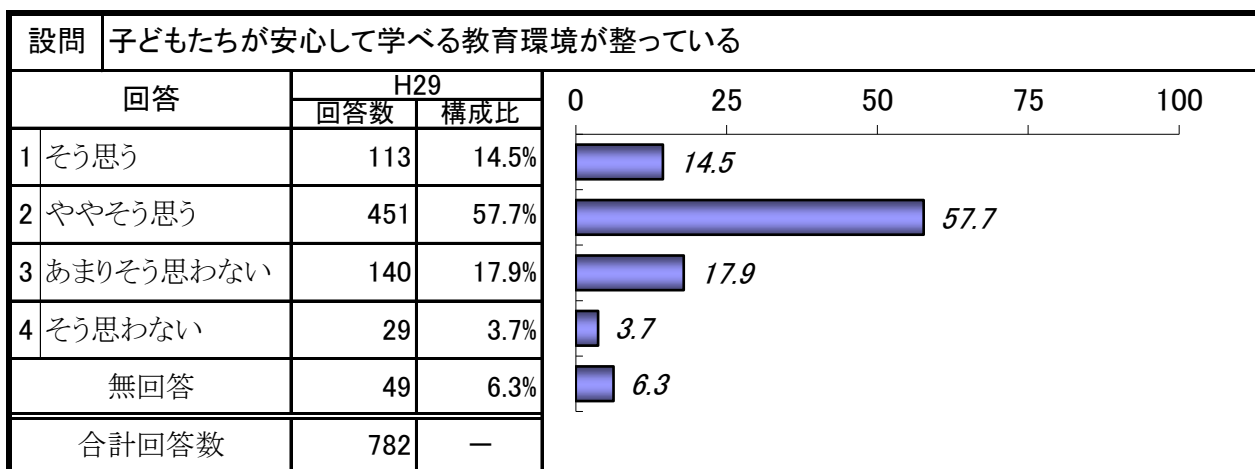
2. 成果指標の実績値に対する考え方

「小・中学校校舎の耐震化率」は100%となっており、目標値を達成しています。

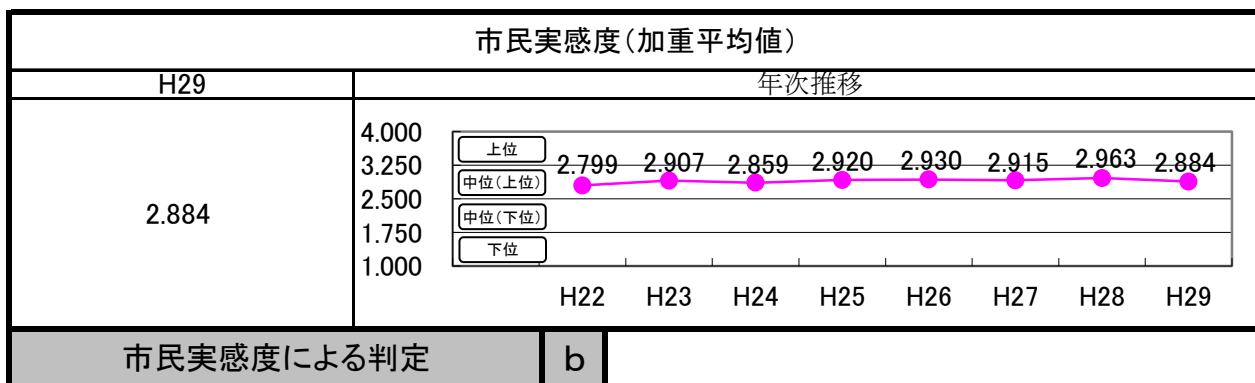
「特別支援学級の設置数」は、前年に比べ1学級増加し、目標値を上回りました。特別な支援を必要とする子どもの教育的ニーズを把握しつつ、学校や地域の状況、保護者や専門家の意見等を総合的に勘案しながら設置をすすめたことが要因と考えます。

「学校支援ボランティアを活用した学校数」は40校となっており、目標値を達成しています。

3. 市民実感度による判定



上記の回答で3(あまりそう思わない)または4(そう思わない)を選んだ理由		H29	
		回答数	構成比
a	学校施設の改修等がすすんでいないから	37	23.0%
b	特別な支援が必要な子どもたちの教育環境が十分でないから	46	28.6%
c	教育に関する情報が、保護者に十分に提供されていないから	48	29.8%
d	その他	30	18.6%
有効回答数		161	—



4. 市民実感度調査結果に対する考え方

市民実感度は、「そう思う」と「ややそう思う」の合計回答数の割合が72.2%となっており、中位(上位)にあります。こども学校応援地域基金プロジェクトなどにより、子どもたちが安心して生き生きと学ぶことのできる教育環境づくりをすすめてきたことが一定程度市民に評価されたものと考えます。

一方で、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を選んだ理由としては、「教育に関する情報が、保護者に十分提供されていないから」と「特別な支援が必要な子どもたちの教育環境が十分でないから」の割合が多くなっています。子どもたちの学校生活の状況や教育行政の現状などについて、保護者がきめ細かな情報提供を求めていることや、特別な支援を必要とする児童生徒の増加やニーズの多様化が反映されたものと考えられます。

5. 施策の総合評価

成果指標による判定	a	市民実感度による判定	b
施策の成果を表す客観的なデータ(成果指標以外)	学校施設の耐震化率の全国平均値(平成29年4月)		
<p>成果指標による判定は「a」判定、市民実感度による判定は「b」判定となっています。</p> <p>施策の主な取り組みとしては、帯広第四中学校グラウンド整備など、学校施設等の整備をすすめました。なお、学校施設の耐震化は、平成29年4月における学校施設の耐震化率の全国平均値(98.8%)を上回る割合(100%)となっています。</p> <p>また、教育環境の整備として、帯広市エリア・ファミリー構想に基づき、中学校区をひとつのエリアととらえ、市内14エリアで協議の場であるエリア会議を開催し、幼保・小・中の連携をはかっているほか、就学援助費の支給などに取り組んでいます。</p> <p>さらに、特別支援教育の充実のため、特別支援教育補助員の増員や看護師資格を有する生活介助員の配置、知的学級の新設に取り組んでいます。</p> <p>学校・家庭・地域の連携の促進については、子ども学校応援地域基金プロジェクトにより、学校支援地域本部事業をはじめとする各団体のボランティア同士がつながることによって、子どもたちを地域ぐるみで応援する取り組みをすすめています。</p> <p>こうした取り組みを通して、子どもたちが安心して生き生きと学ぶことのできる教育環境づくりをすすめており、それが成果指標や市民実感度にも表れてきているものと考えます。</p> <p>以上の状況を総合的に勘案し、施策は目標に向かって、順調にすすんでいると評価します。</p>			
目標に向かって、順調にすすんでいる		A	

6. 施策の課題と今後の取り組み方向

課題	<p>小・中学校の校舎等については、築年数30年以上が経過しているものが全体の7割を超えており、老朽化がすすんでいることから、建物・設備の延命化への取り組みが必要となっています。</p> <p>また、少子化などの教育を取り巻く環境の変化に対応しながら教育環境の充実をはかるため、学校規模の適正化の取り組みが必要となっています。</p> <p>特別支援教育については、これまでも環境面や支援体制の充実をはかってきたところですが、対象児童生徒の増加に伴いニーズも多様化しており、現状の体制・環境では十分に対応しきれない面があることが課題となっています。</p> <p>子ども学校応援地域基金プロジェクトの推進にあたっては、学校支援コーディネーターやボランティアの高齢化に伴い人材の確保が難しくなっていることが課題となっています。</p>
今後の取り組み方向	<p>小・中学校の校舎等の整備については、国や北海道、他都市の動向の情報収集をすすめ、施設の状態を把握しながら長寿命化計画を策定し、適正な改修・更新をすすめていきます。</p> <p>また、小中学校適正規模の確保等に関する計画を策定し、検討をすすめていく対象校を選定したうえで、児童生徒・保護者・地域住民などの意見もいただきながら、学校規模の適正化の取り組みをすすめていきます。</p> <p>特別支援教育については、特別な配慮を要する児童生徒に対し、適切な支援や教育を行うため、合理的配慮(※)の考え方に基づいた体制・環境の整備をすすめます。</p> <p>子ども学校応援地域基金プロジェクトの推進により、ボランティア同士のつながりを広げながら、各団体と活動の情報交流を行い、地域の人材発掘や活動内容の充実にも努めていきます。また、各団体や人とをつなぐコーディネーターのあり方についても引き続き検討を行います。</p>

※合理的配慮:障害のある方から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合に、負担になり過ぎない範囲で、社会的障壁を取り除くこと。

(参考) 基本事業の取り組み内容

基本事業名	平成28年度の実績
(1) 学校施設等の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・東小学校校舎温水ボイラー改修 ・帯広第四中学校グラウンド整備 ・柏小学校トイレ大規模改造着工 ・中学校第2学年分の机、椅子更新(1,500セット)
(2) 教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模特認校就学児童数(4人) ・「帯広市エリア・ファミリー構想」の推進(市内全14エリアで協議の場を設置するとともに、「エリアの日」を設定) ・エリア実践交流会の実施(46人) 「おびひろっ子9年教育プログラム」リーフレットの作成及び全町内会、関係者への配布 ・就学援助認定者数(小学生 1,710人、中学生 1,012人) ・教職員住宅の整備(改築～清川小学校、実施設計～帯広第七中学校) ・帯広市立小中学校適正規模・適正配置市民検討委員会の開催(7回) ・(仮称)帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する基本方針(原案)に対する地域説明会の開催(8回、57人) ・(仮称)帯広市立小中学校適正規模の確保等に関する基本方針(原案)に対するパブリックコメントの募集(17件、7人) ・幼保小連携研修交流事業の実施(こどもの交流:68回 882人、大人の交流:254回 348人) ・幼稚園教諭・保育所保育士合同研修(1回 73人) ・教育委員会会議の開催(22回) ・教育懇談会の開催(6ヵ所、101人)
(3) 特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・就学に関する教育相談の実施(372件) ・特別支援教育就学奨励費支給者数(小学生139人、中学生42人) ・修学旅行への保護者同行費の支給(2人) ・特別支援教育助手配置(10人) ・特別支援教育補助員配置(58人) ・生活介助員配置(24人) ・特別支援学級の開設(知的学級 1校、病弱・身体虚弱学級 1校) ・障害者高等教育補助(124人)
(4) 学校・家庭・地域の連携の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域開放学校数(29校) ・余裕教室の活用 211室(学校施設として活用) ・学校評議員の設置(全小中学校 40校、193人) ・新任学校評議員研修会の実施 ・学校評議員だよりの発行(年3回) ・学校支援地域本部事業の実施(全小中学校 40校・取り組みの成果発表及び交流会、コーディネーター研修会の開催) ・「帯広市子供安全ネットワーク」のシステム改善及び運用管理 ・「こども・学校への応援ページ」(市ホームページ)開設による情報発信 ・「こども応援! みらいカフェ」の開催 ・子どもの見守り活動実施校(全小中学校 40校)

平成29年度 施策評価表

総合計画体系	まちづくりの目標	6 生涯にわたる学びのまち	評価担当部	学校教育部
	政策	6-1 次代を担う人を育むまちづくり	関係部	
	施策	6-1-3 高等学校教育の推進		
	施策の目標	高等学校への進学機会の確保をはかるとともに、豊かな社会性を兼ね備え、社会に貢献する人材を育む高等学校教育をすすめます。		

1. 成果指標による判定

成果指標	単位	H28(実績)	判定	実績値の年次推移
		H28(目標)		
1 帯広南商業高等学校の就職率	%	100.0	a	
		100.0		
2 帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率	%	88.4	a	
		64.5		
成果指標による判定			a	

2. 成果指標の実績値に対する考え方

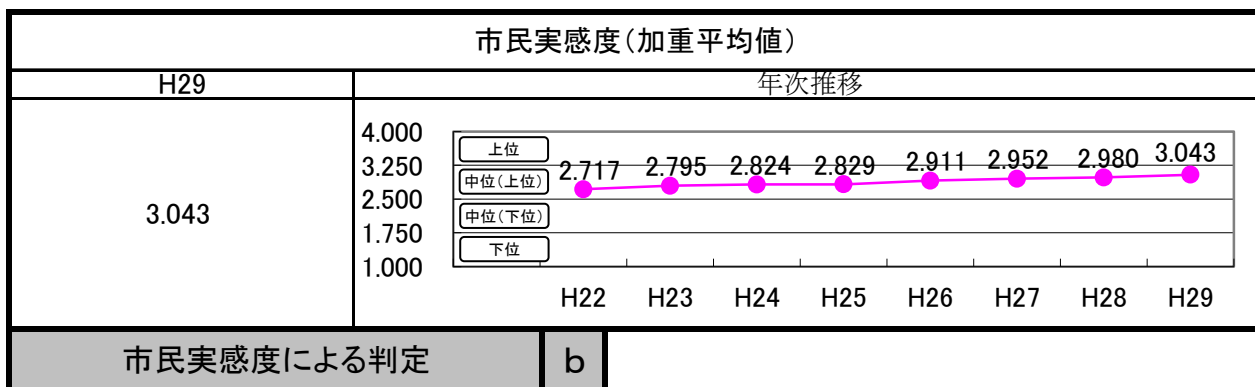
「帯広南商業高等学校の就職率」は、卒業生199人のうち、就職希望生徒126人全員が就職し、目標値を達成しました。1年次から体系的に進路指導に取り組む中で、生徒個々への適切な対応や企業との緊密な連携などに継続して取り組んできたことが要因と考えます。

「帯広南商業高等学校における検定の3種目以上1級取得率」は、前年に比べ14.9ポイント増加し、目標値を上回りました。北海道内トップクラスの資格取得率(道内の商業科目を学ぶ高等学校の中で平成26年度から3年連続1位)を維持していることが、生徒の資格取得への高い意識につながっていることに加え、体系的に基礎から専門的・実践的指導に取り組んできたことなどが要因と考えます。

3. 市民実感度による判定

設問		高等学校において充実した教育が行われている				
回答	H29 回答数	H29 構成比	0 25 50 75 100			
			1	177	22.5%	22.5
2	432	55.0%	55.0			
3	94	12.0%	12.0			
4	26	3.3%	3.3			
無回答		57	7.3%	7.3		
合計回答数		786	—			

上記の回答で3(あまりそう思わない)または4(そう思わない)を選んだ理由		H29	
		回答数	構成比
a	特色ある教育が行われていないから	17	14.8%
b	学習内容が身につけていないから	12	10.4%
c	社会性を育む教育が行われていないから	55	47.8%
d	その他	31	27.0%
有効回答数		115	—



4. 市民実感度調査結果に対する考え方

市民実感度は、「そう思う」と「ややそう思う」の合計回答数の割合が77.5%となっており、中位(上位)にあります。高等学校教育に関する様々な取り組みが一定程度市民に評価されたものと考えます。

一方で、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を選んだ理由としては、「社会性を育む教育が行われていないから」が最も多くなっています。帯広南商業高等学校では、教育の一環として部活動を通じて全生徒がボランティア活動などの社会性を育む取り組みを行っていますが、こうした取り組みに対する校外での認知が進んでいないことや、高校生全体を見たときに、一部の高校生に見受けられる良識を欠く行為等を反映したものと考えます。

5. 施策の総合評価

成果指標による判定	a	市民実感度による判定	b
施策の成果を表す客観的なデータ(成果指標以外)	道内公立高等学校就職内定率(平成28年度)		
<p>成果指標による判定は「a」判定、市民実感度による判定は「b」判定となっています。</p> <p>施策の主な取り組みとしては、保護者の経済的負担を軽減し、高等学校への進学機会を確保するため、私立高校の教材教具の整備や授業料に対する補助、奨学金の貸付などを行っているほか、高等学校の間口を確保するため、「帯広市高等学校間口対策協議会」を中心に情報収集や要望活動を行っています。</p> <p>また、帯広南商業高等学校においては、「地域事業者による実践的な授業や情報処理教育などのキャリア教育」、「英語指導助手の配置や姉妹都市への生徒派遣などの国際理解教育」、「生徒及び教諭のインターンシップ」、「性教育講習会、普通救命講習会、全生徒による部活動単位でのボランティア活動など社会性を育む教育」の充実に取り組んでいます。</p> <p>加えて、同校は就職を希望する生徒の就職率が100%(平成29年3月末現在の道内公立高等学校就職内定率 98.1%)となっており、企業・経済活動に必要とされる各種資格を有する即戦力としての人材を輩出するなど、生産年齢人口が減少する中、地域の産業や経済に貢献しています。</p> <p>こうした高等学校教育に関する様々な取り組みの成果が、成果指標や市民実感度に表れているものと考えます。</p> <p>以上の状況を総合的に勘案し、施策は目標に向かって、順調にすすんでいると評価します。</p>			
目標に向かって、順調にすすんでいる		A	

6. 施策の課題と今後の取り組み方向

課題	<p>中学校卒業生数の減少に伴い市内高等学校の間口も徐々に削減されてきていることから、地元高校への進学機会が損なわれないよう、適切に間口を維持・確保していくことが課題となっています。</p> <p>帯広南商業高等学校においては、教育目標である社会に貢献する産業人を育成し、引き続き、社会ニーズに応じていけるよう施設等の老朽化に適切に対応し、良好な教育環境を維持していく必要があります。</p>
今後の取り組み方向	<p>高等学校への進学機会の確保に向け、「帯広市高等学校間口対策協議会」を通じた情報収集や要望活動を行うほか、地域に貢献する産業人を育成するため、帯広南商業高等学校の施設や設備を含めた良好な教育環境の維持に引き続き取り組みます。</p>

(参 考) 基本事業の取り組み内容

基本事業名	平成28年度の実績
(1) 進学機会の確保	<ul style="list-style-type: none">・帯広市高等学校間口対策協議会の開催(1回)・私立高等学校への教材教具整備補助(2校)・私立高等学校生徒授業料補助(230人)・奨学金貸付(大学生53人、専門学校生5人、高校生2人)
(2) 帯広南商業高等学校の教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・パソコン設置教室数(4教室)・生徒用パソコン設置台数(168台)・外国人英語指導助手(1人)・マディソン市派遣研修(5人)・インターンシップ事業等協力事業者数(46事業者)・学校開放講座受講者数(1講座4日間 19人)・ボランティア活動クラブ数(32クラブ)・普通救命講習受講(全1学年対象)

平成29年度 施策評価表

総合計画体系	まちづくりの目標	6 生涯にわたる学びのまち	評価担当部	政策推進部
	政策	6-1 次代を担う人を育むまちづくり	関係部	
	施策	6-1-4 高等教育の充実		
	施策の目標	高度な専門的教育・研究を行い、地域の知の拠点としての役割を担う高等教育機関の整備・充実をすすめます。		

1. 成果指標による判定

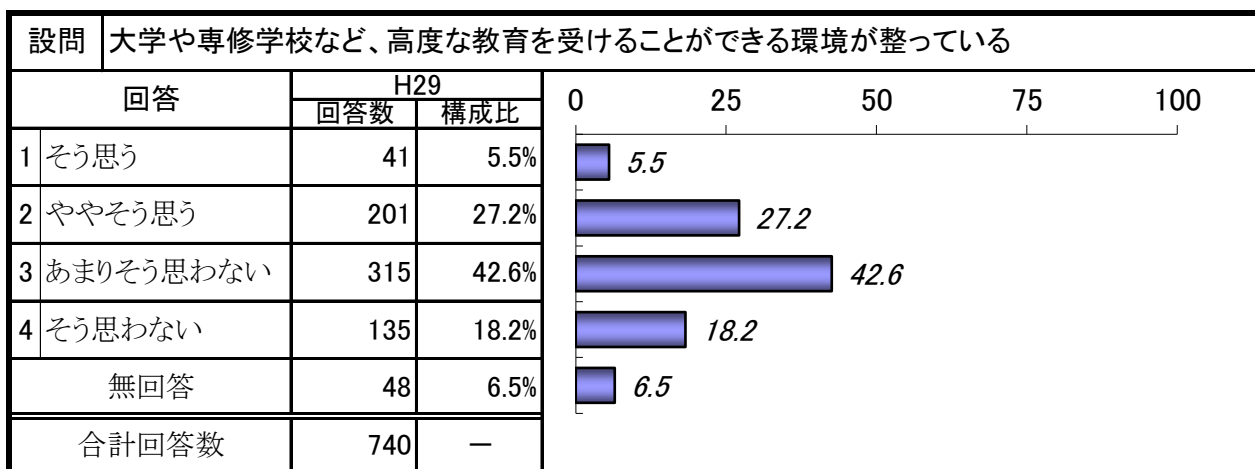
成果指標	単位	H28(実績)	判定	実績値の年次推移
		H28(目標)		
1 新たな大学等の設置数	校	0	d	
		1		
2 帯広畜産大学の地域貢献推進事業数	事業	193	a	
		123		
成果指標による判定			b	

2. 成果指標の実績値に対する考え方

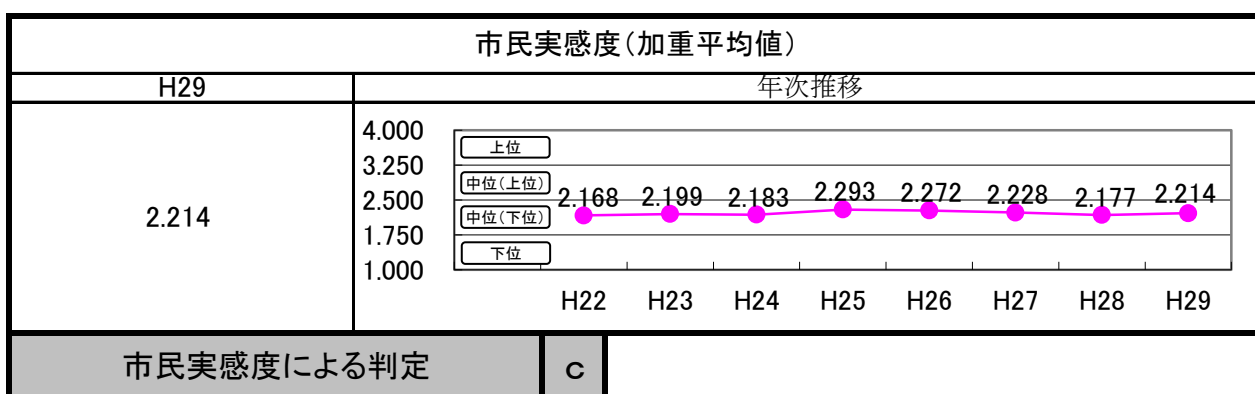
「新たな大学等の設置数」は、目標値を下回っています。平成23年度に、これまでの公私協力方式による大学誘致等から、帯広畜産大学を中心に、地域の特性・優位性を活かし、まちづくりと連動させながら、段階的に高等教育機関の整備をすすめる取り組みへと方針転換し、地域が必要とする大学等の整備を目指すこととしています。

「帯広畜産大学の地域貢献推進事業数」は、前年より減少したものの、目標値を上回っています。帯広畜産大学と地域との連携のもと、まちなかを拠点とした学生主体の地域貢献活動がすすめられているほか、学校現場への出前授業や各種団体・企業等への講師派遣などの充実がはかられていることが要因と考えます。

3. 市民実感度による判定



上記の回答で3(あまりそう思わない)または4(そう思わない)を選んだ理由		H29	
		回答数	構成比
a	大学や短大、資格を取得できる専修学校が少ないから	200	48.3%
b	地元の大学などに学びたい分野(学部・学科・コース)がないから	108	26.1%
c	働きながら学ぶことのできる環境が整っていないから	40	9.7%
d	地域産業を支える人材育成の取り組みが充実していないから	35	8.5%
e	大学などを活用した市民の生涯学習機会が充実していないから	13	3.1%
f	その他	18	4.3%
有効回答数		414	—



4. 市民実感度調査結果に対する考え方

市民実感度は、「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計回答数の割合が60.8%となっており、中位(下位)にあります。

実感が低い理由としては、「大学や短大、資格を取得できる専修学校が少ないから」と「地元の大学などに学びたい分野(学部・学科・コース)がないから」の合計回答数の割合が74.4%となっており、高等教育の機会が限られていることが要因と考えます。

5. 施策の総合評価

成果指標による判定	b	市民実感度による判定	c
施策の成果を表す客観的なデータ(成果指標以外)			
<p>成果指標による判定は「b」判定、市民実感度による判定は「c」判定となっています。</p> <p>施策の主な取り組みとしては、とちぎ高等教育推進まちづくり会議において、人材育成等をテーマとした地元企業へのヒアリングを行ったほか、他地域の行政や大学コンソーシアムを訪問し、人材育成の取り組みなどについて情報収集を行いながら、地域の発展に必要な高等教育のあり方に関する中間報告をとりまとめました。</p> <p>また、帯広畜産大学の整備拡充に向け、関係団体と連携しながら国等に対する要望活動を行ったほか、フードバレーとちぎ人材育成事業や、おびひろ動物園との共同プロジェクト、馬のいるまちづくり共同事業、若者が牽引するしごとづくり・まちづくりプラン推進事業など、帯広畜産大学と様々な連携事業をすすめています。</p> <p>こうした取り組みを通して、十勝ジンギスカン会議をはじめ、学生主体によるまちづくりの取り組みが生まれたほか、地域との連携などが評価され、帯広畜産大学の運営費交付金の再配分率が全国トップクラスとなるなど、一定の成果にもつながっています。</p> <p>このように、高等教育機関の整備・充実に向けた様々な取り組みをすすめてきておりますが、現段階においては新たな大学等の設置に至っておらず、また、市民実感度は依然として中位(下位)にあります。</p> <p>以上の状況を総合的に勘案し、施策は目標に向かって、あまりすすんでいないと評価します。</p>			
目標に向かって、あまりすすんでいない		C	

6. 施策の課題と今後の取り組み方向

課題	<p>少子化の進行など大学運営を取り巻く厳しい状況を踏まえながら、地域の将来発展に必要な人材像について整理を行い、高等教育機関などと連携した人材育成の充実や高等教育機関の拡充につなげていく必要があります。</p>
今後の取り組み方向	<p>地元企業へのヒアリングの結果等を活かしつつ、とちぎ高等教育推進まちづくり会議において議論を重ねながら、人材育成の仕組みや新たな大学等の整備に関する具体的な方向性を整理していきます。</p> <p>また、帯広畜産大学の整備拡充に向けて、引き続き国への要望活動を行うとともに、短期大学・専修学校等に関する情報収集を行います。</p>

(参 考) 基本事業の取り組み内容

基本事業名	平成28年度の実績
(1)大学の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・高等教育機関の整備・充実に向けた検討・協議(とち高高等教育推進まちづくり会議の開催) ・他地域の行政や大学等の取り組みに関する視察調査(行政機関1ヵ所、大学コンソーシアム1ヵ所) ・帯広畜産大学の整備・拡充に向けた要望活動(平成28年7月 国・北海道に実施)
(2)高等教育機関との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・帯広畜産大学と帯広市との連携協議会の開催(平成28年度3月開催。ヒトと馬の絆による教育・研究・社会貢献事業、フードバレーとち人材育成、動物園との連携事業、若者が牽引するしごとづくり・まちづくりプラン推進事業などを議題)
(3)短期大学・専修学校等の整備促進	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の整備の検討と併せ情報収集の実施

平成29年度 政策評価表

総合計画体系	まちづくりの目標	6 生涯にわたる学びのまち	評価担当部	政策推進部	
	政策	6-2 ともに学び地域のきずなを育むまちづくり	関係部	生涯学習部	
	施策	6-2-1	学習活動の推進		
		6-2-2	芸術・文化の振興		
6-2-3		スポーツの振興			

1. 政策の基本的な考え方

市民が生涯を通して学び、知識や経験を人生やまちづくりに活かすことができる地域づくりが必要です。政策6-2では、市民が、生涯にわたる学習活動、文化・スポーツ活動などを通して、自らの可能性を広げるとともに、人とのつながりを深め、地域づくりに参加できるまちをつくれます。

2. 政策の総合評価

市民実感度は、「学習活動の推進」、「芸術・文化の振興」、「スポーツの振興」のいずれも、中位(上位)にあります。

学習活動の推進については、社会教育施設の機能が将来にわたり効果的に発揮できるよう適切な維持管理に努めるほか、図書館における図書の貸出点数の増加に向け、より魅力ある利用者サービスや情報発信に努める必要があります。

芸術・文化の振興については、芸術・文化情報の効果的な発信に向けた取り組みをすすめるとともに、芸術・文化団体の担い手確保や人材育成をはかるほか、施設状況等を把握しながら適正な維持管理に努める必要があります。

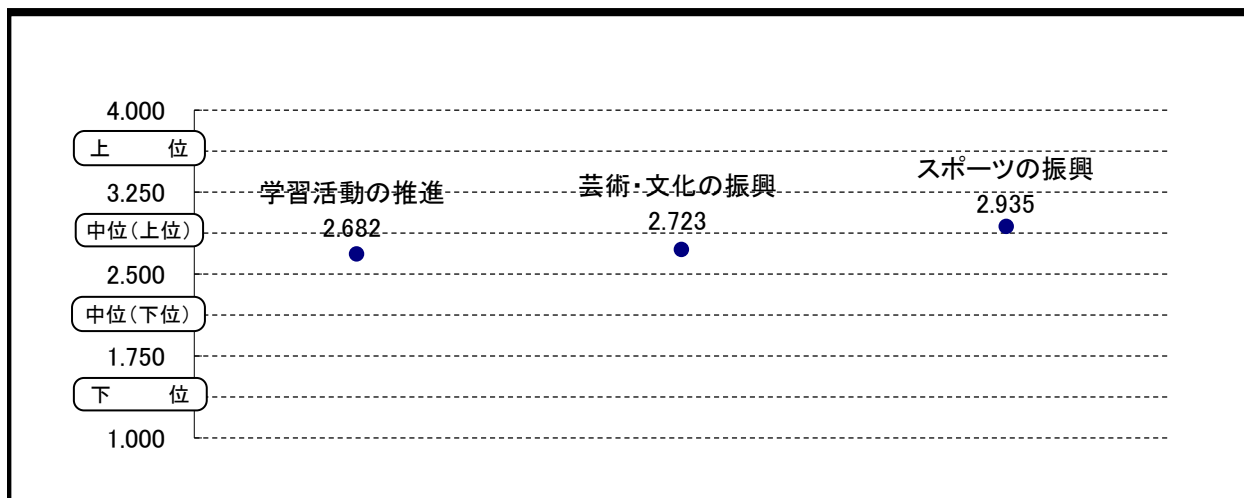
スポーツの振興については、幼少期からスケート競技に親しむことができる機会の充実に努めるほか、多くの市民がスケート競技に触れ、楽しむことのできるきっかけづくりや国際大会等の誘致などに取り組んでいく必要があります。

3. 政策を構成する各施策の総合評価結果一覧

政策を構成する施策		
6-2-1	学習活動の推進	B
6-2-2	芸術・文化の振興	B
6-2-3	スポーツの振興	B

※各施策の総合評価の詳細については、次頁以降の施策評価表をご覧ください。

4. 政策を構成する各施策の市民実感度の散布図



※この図の市民実感度は、市民の皆さんの回答を加重平均で表した数値です。

※市民実感度は、1.000～4.000の間の数値で表され、中間値が2.500となります。

※各施策の市民実感度の詳細については、次頁以降の施策評価表をご覧ください。

平成29年度 施策評価表

総合計画体系	まちづくりの目標	6 生涯にわたる学びのまち	評価担当部	生涯学習部
	政策	6-2 ともに学び地域のきずなを育むまちづくり	関係部	
	施策	6-2-1 学習活動の推進		
	施策の目標	生涯にわたって学び、学習の成果を活かすことができる環境づくりをすすめます。		

1. 成果指標による判定

成果指標	単位	H28(実績) H28(目標)	判定	実績値の年次推移																																	
1 帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数	人	38,741 23,000	a	<table border="1"> <caption>Indicator 1: Annual Performance</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual Value</th><th>Target Value</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>22,590</td><td>23,000</td></tr> <tr><td>H21</td><td>24,954</td><td>23,000</td></tr> <tr><td>H22</td><td>26,656</td><td>23,000</td></tr> <tr><td>H23</td><td>30,138</td><td>23,000</td></tr> <tr><td>H24</td><td>36,170</td><td>23,000</td></tr> <tr><td>H25</td><td>37,168</td><td>23,000</td></tr> <tr><td>H26</td><td>36,753</td><td>23,000</td></tr> <tr><td>H27</td><td>37,542</td><td>23,000</td></tr> <tr><td>H28</td><td>38,741</td><td>23,000</td></tr> <tr><td>H31</td><td>23,000</td><td>23,000</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual Value	Target Value	H19	22,590	23,000	H21	24,954	23,000	H22	26,656	23,000	H23	30,138	23,000	H24	36,170	23,000	H25	37,168	23,000	H26	36,753	23,000	H27	37,542	23,000	H28	38,741	23,000	H31	23,000	23,000
Year	Actual Value	Target Value																																			
H19	22,590	23,000																																			
H21	24,954	23,000																																			
H22	26,656	23,000																																			
H23	30,138	23,000																																			
H24	36,170	23,000																																			
H25	37,168	23,000																																			
H26	36,753	23,000																																			
H27	37,542	23,000																																			
H28	38,741	23,000																																			
H31	23,000	23,000																																			
2 地域について学ぶ講座等への参加者数	人	6,596 4,000	a	<table border="1"> <caption>Indicator 2: Annual Performance</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual Value</th><th>Target Value</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>4,053</td><td>4,000</td></tr> <tr><td>H21</td><td>3,311</td><td>4,000</td></tr> <tr><td>H22</td><td>2,871</td><td>4,000</td></tr> <tr><td>H23</td><td>5,382</td><td>4,000</td></tr> <tr><td>H24</td><td>5,601</td><td>4,000</td></tr> <tr><td>H25</td><td>6,347</td><td>4,000</td></tr> <tr><td>H26</td><td>5,598</td><td>4,000</td></tr> <tr><td>H27</td><td>5,355</td><td>4,000</td></tr> <tr><td>H28</td><td>6,596</td><td>4,000</td></tr> <tr><td>H31</td><td>4,000</td><td>4,000</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual Value	Target Value	H19	4,053	4,000	H21	3,311	4,000	H22	2,871	4,000	H23	5,382	4,000	H24	5,601	4,000	H25	6,347	4,000	H26	5,598	4,000	H27	5,355	4,000	H28	6,596	4,000	H31	4,000	4,000
Year	Actual Value	Target Value																																			
H19	4,053	4,000																																			
H21	3,311	4,000																																			
H22	2,871	4,000																																			
H23	5,382	4,000																																			
H24	5,601	4,000																																			
H25	6,347	4,000																																			
H26	5,598	4,000																																			
H27	5,355	4,000																																			
H28	6,596	4,000																																			
H31	4,000	4,000																																			
3 学習成果の活用事例数	件	9 7	a	<table border="1"> <caption>Indicator 3: Annual Performance</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual Value</th><th>Target Value</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H20</td><td>1</td><td>2</td></tr> <tr><td>H21</td><td>3</td><td>3</td></tr> <tr><td>H22</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>H23</td><td>5</td><td>5</td></tr> <tr><td>H24</td><td>6</td><td>6</td></tr> <tr><td>H25</td><td>8</td><td>7</td></tr> <tr><td>H26</td><td>9</td><td>8</td></tr> <tr><td>H27</td><td>9</td><td>9</td></tr> <tr><td>H28</td><td>9</td><td>9</td></tr> <tr><td>H31</td><td>9</td><td>10</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual Value	Target Value	H20	1	2	H21	3	3	H22	4	4	H23	5	5	H24	6	6	H25	8	7	H26	9	8	H27	9	9	H28	9	9	H31	9	10
Year	Actual Value	Target Value																																			
H20	1	2																																			
H21	3	3																																			
H22	4	4																																			
H23	5	5																																			
H24	6	6																																			
H25	8	7																																			
H26	9	8																																			
H27	9	9																																			
H28	9	9																																			
H31	9	10																																			
4 地域の指導者の登録者数	人	166 175	b	<table border="1"> <caption>Indicator 4: Annual Performance</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual Value</th><th>Target Value</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>138</td><td>138</td></tr> <tr><td>H21</td><td>110</td><td>140</td></tr> <tr><td>H22</td><td>107</td><td>145</td></tr> <tr><td>H23</td><td>109</td><td>150</td></tr> <tr><td>H24</td><td>102</td><td>155</td></tr> <tr><td>H25</td><td>116</td><td>160</td></tr> <tr><td>H26</td><td>122</td><td>165</td></tr> <tr><td>H27</td><td>126</td><td>170</td></tr> <tr><td>H28</td><td>166</td><td>175</td></tr> <tr><td>H31</td><td>166</td><td>190</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual Value	Target Value	H19	138	138	H21	110	140	H22	107	145	H23	109	150	H24	102	155	H25	116	160	H26	122	165	H27	126	170	H28	166	175	H31	166	190
Year	Actual Value	Target Value																																			
H19	138	138																																			
H21	110	140																																			
H22	107	145																																			
H23	109	150																																			
H24	102	155																																			
H25	116	160																																			
H26	122	165																																			
H27	126	170																																			
H28	166	175																																			
H31	166	190																																			
5 市民1人当たりの図書等の貸出点数	点	5.6 6.5	d	<table border="1"> <caption>Indicator 5: Annual Performance</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual Value</th><th>Target Value</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>5.4</td><td>5.4</td></tr> <tr><td>H21</td><td>5.7</td><td>5.5</td></tr> <tr><td>H22</td><td>5.7</td><td>5.6</td></tr> <tr><td>H23</td><td>5.8</td><td>5.7</td></tr> <tr><td>H24</td><td>5.7</td><td>5.8</td></tr> <tr><td>H25</td><td>5.7</td><td>5.9</td></tr> <tr><td>H26</td><td>5.7</td><td>6.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>5.8</td><td>6.1</td></tr> <tr><td>H28</td><td>5.6</td><td>6.2</td></tr> <tr><td>H31</td><td>5.6</td><td>7.0</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual Value	Target Value	H19	5.4	5.4	H21	5.7	5.5	H22	5.7	5.6	H23	5.8	5.7	H24	5.7	5.8	H25	5.7	5.9	H26	5.7	6.0	H27	5.8	6.1	H28	5.6	6.2	H31	5.6	7.0
Year	Actual Value	Target Value																																			
H19	5.4	5.4																																			
H21	5.7	5.5																																			
H22	5.7	5.6																																			
H23	5.8	5.7																																			
H24	5.7	5.8																																			
H25	5.7	5.9																																			
H26	5.7	6.0																																			
H27	5.8	6.1																																			
H28	5.6	6.2																																			
H31	5.6	7.0																																			
6 社会教育施設の総利用者数	万人	104.4 95.2	a	<table border="1"> <caption>Indicator 6: Annual Performance</caption> <thead> <tr><th>Year</th><th>Actual Value</th><th>Target Value</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>95.2</td><td>95.2</td></tr> <tr><td>H21</td><td>92.2</td><td>95.2</td></tr> <tr><td>H22</td><td>95.5</td><td>95.2</td></tr> <tr><td>H23</td><td>94.8</td><td>95.2</td></tr> <tr><td>H24</td><td>95.7</td><td>95.2</td></tr> <tr><td>H25</td><td>101.7</td><td>95.2</td></tr> <tr><td>H26</td><td>100.5</td><td>95.2</td></tr> <tr><td>H27</td><td>108.0</td><td>95.2</td></tr> <tr><td>H28</td><td>104.4</td><td>95.2</td></tr> <tr><td>H31</td><td>95.2</td><td>95.2</td></tr> </tbody> </table>	Year	Actual Value	Target Value	H19	95.2	95.2	H21	92.2	95.2	H22	95.5	95.2	H23	94.8	95.2	H24	95.7	95.2	H25	101.7	95.2	H26	100.5	95.2	H27	108.0	95.2	H28	104.4	95.2	H31	95.2	95.2
Year	Actual Value	Target Value																																			
H19	95.2	95.2																																			
H21	92.2	95.2																																			
H22	95.5	95.2																																			
H23	94.8	95.2																																			
H24	95.7	95.2																																			
H25	101.7	95.2																																			
H26	100.5	95.2																																			
H27	108.0	95.2																																			
H28	104.4	95.2																																			
H31	95.2	95.2																																			
成果指標による判定			a																																		

2. 成果指標の実績値に対する考え方

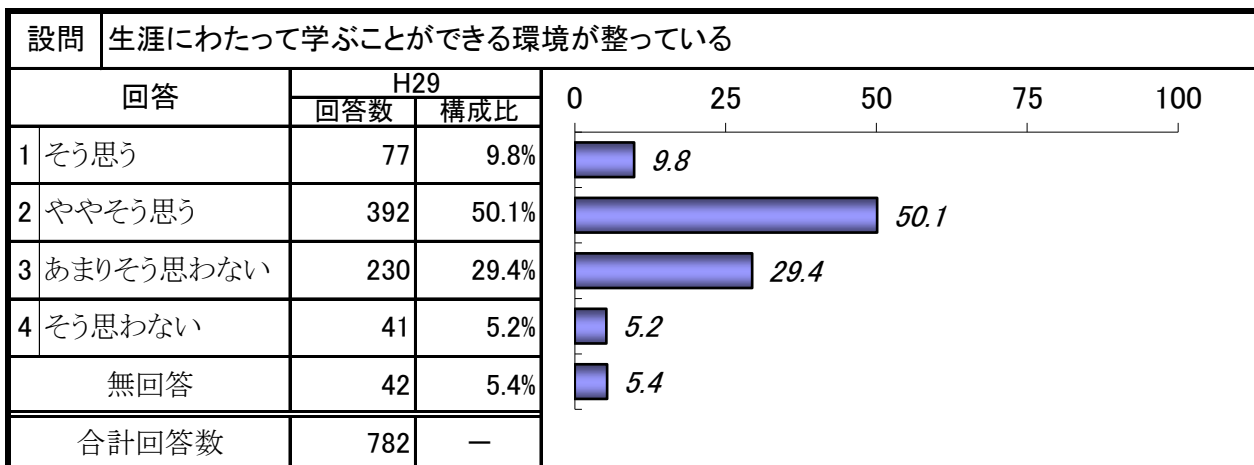
「帯広市教育委員会が開催する講座等の参加者数」、「地域について学ぶ講座等への参加者数」、「学習成果の活用事例数」は、いずれも目標値を達成しています。

「地域の指導者の登録者数」は、前年に比べ40人増加したものの、目標値を下回りました。帯広市教育委員会の所管事業で依頼する講師などに対し指導者の登録依頼を行ったことなどにより、新規登録者数は大幅に増加したものの、既登録指導者が高齢化により減少したことが要因と考えます。

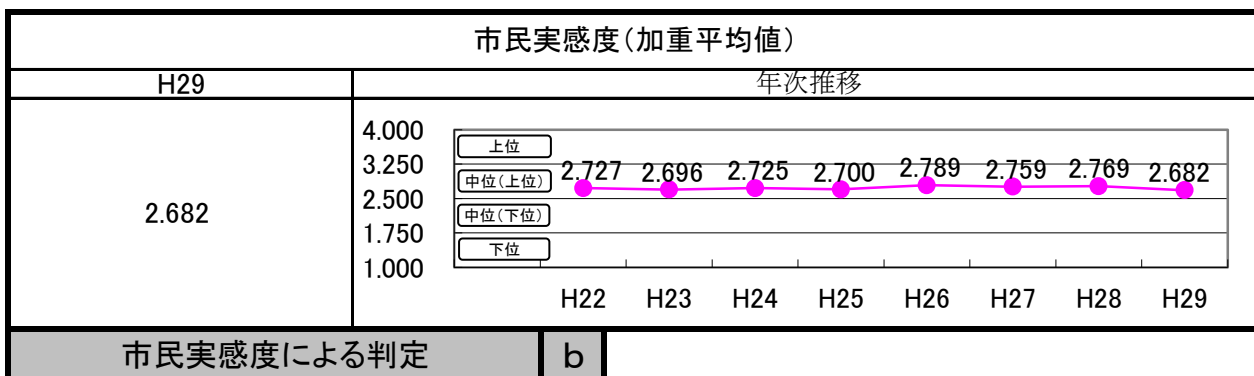
「市民1人当たりの図書等の貸出点数」は、前年に比べ0.2点減少し、目標値を下回りました。親子での来館者の減少に伴い児童書の貸出冊数が減少したことなどが要因と考えます。

「社会教育施設の総利用者数」は、前年に比べ3万6千人減少したものの、目標値を上回りました。動物園では長雨や台風の影響により来園者数が前年に比べ2万8千人減少しましたが、とちまちプラザでは「とちまちマルシェ」などのイベント開催により来館者数が堅調に推移したことが要因と考えます。

3. 市民実感度による判定



上記の回答で3(あまりそう思わない)または4(そう思わない)を選んだ理由	H29	
	回答数	構成比
a 参加したいと思う講座が少ないから	98	37.8%
b 学習に関する情報が少ないから	73	28.2%
c 社会教育施設に魅力がないから	43	16.6%
d 学習成果を活かす機会が少ないから	33	12.7%
e その他	12	4.6%
有効回答数	259	—



4. 市民実感度調査結果に対する考え方

市民実感度は、「そう思う」と「ややそう思う」の合計回答数の割合が59.9%となっており、中位(上位)にあります。受講者の年齢層を意識した開催時間の設定や各施設の特色を生かした講座等に取り組んだことが一定程度市民に評価されたものと考えます。

一方で、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を選んだ理由としては、「参加したいと思う講座が少ないから」の割合が最も多くなっています。市民ニーズが多様化していることや、開催内容などの情報が市民に十分伝わっていないことが要因と考えます。

5. 施策の総合評価

成果指標による判定	a	市民実感度による判定	b
施策の成果を表す客観的なデータ(成果指標以外)			
<p>成果指標による判定は「a」判定、市民実感度による判定は「b」判定となっています。</p> <p>施策の主な取り組みとしては、市民大学講座等の各種講座をはじめ、各社会教育施設の特色を生かした講演会や体験教室の開催、指定管理者による自主事業などにより、世代に応じた周知や申込方法を工夫しながら多様な学習機会を提供してきました。</p> <p>市民実感度からは、多様化する市民ニーズに十分対応できていない状況もうかがえますが、これまでの取り組みにより、地域の指導者の登録者数が大幅に増加したほか、長雨や台風の影響がある中、社会教育施設の総利用者数が堅調に推移するなど、多くの成果指標で目標値を上回っています。</p> <p>以上の状況を総合的に勘案し、施策は目標に向かって、ある程度すすんでいると評価します。</p>			
目標に向かって、ある程度すすんでいる		B	

6. 施策の課題と今後の取り組み方向

課題	<p>社会教育施設の総利用者数や講座等の参加者数は堅調に推移していますが、一部の施設において老朽化がすすみ、設備等の更新時期を迎えていることから、利用者の安全確保をはかるとともに、施設機能の維持に向けた取り組みをすすめていくことが求められています。</p> <p>また、図書館では利用者に多くの本を借りてもらえるよう館内での企画展示などの取り組みをすすめていますが、貸出点数の多い親子での利用者数が減少するなど、図書館の貸出点数が伸び悩んでいることが課題です。</p>
今後の取り組み方向	<p>社会教育施設は市民の学習拠点であり、将来にわたり機能が効果的に発揮できるよう、施設状況等を把握しながら、適切な維持管理に努めます。</p> <p>また、これまで図書館を利用していない人に足を運んでもらえるよう、引き続き、様々な講座や講演会を開催するとともに、より魅力ある利用者サービスや情報発信に努めます。</p>

(参 考) 基本事業の取り組み内容

基本事業名	平成28年度の実績
(1) 学習活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・とがちプラザ等 エンジョイスクール(150講座、1,949人)、高齢者学級(30講座、166人)等 ・図書館 フードバレーコーナーやビジネス支援コーナーなど特設コーナーによる情報提供、学校図書館クリニック(2校 明星小・開西小)、おはなし会・朗読会(111回・3,621人)、こども映画会(12回、509人)、日曜映画会など(16回、681人)、畜大連携事業(3回、42人)、製本講習会(34人)等 ・百年記念館 自然観察会(3回、39人)、郷土学習見学会(2回、60人)、博物館講座(15回、804人)、連続講座(2回、45人)、地質講座(5回、144人)、講演会・体験教室等(16回、1,314人)、郷土美術展、ロビーコンサート等 ・動物園 総合学習(15団体、367人)、親子で挑戦! 動物園のミステリークイズ(2回、20人)、1日飼育係(7回、33人)、裏側探検隊(4回、122人)、ふれあい教室(71組、2,012人)、夜間開園(8,523人)、帯広畜産大学との連携事業等
(2) 学習活動を通じたまちづくりの促進	<ul style="list-style-type: none"> ・とがちプラザ等 市民大学講座(57講座、延べ85日、延べ4,096人)、わかば会学習会(合同学習会8回、地区学習会99回)、生涯学習推進委員会コミュニティ講座(246講座、24,406人)、日本PTA北海道ブロック研究大会十勝帯広大会(1,153人)等 ・文化財 十勝鉄道蒸気機関車4号及び客車コハ23号公開(254人)、文化財めぐり(4人)、文化財審議委員会の開催(1回)等 ・図書館 語り手育成講習会(2回、63人)、帯広叢書第69巻刊行 ・百年記念館 博物館ボランティアによる展示解説(20団体、836名)、「音の博物館」「レコードコンサート」等自主事業(6回)、陶芸ボランティアによる講座(22回)等 ・動物園 「ズーフル」(ふれあい動物園、よるの動物園行事)、「オズフル」(サテライトブースのガイド、動物園行事協力)、「おびひろ動物園協会」(ボランティアガイド、よるの動物園行事)等
(3) 社会教育施設の整備・管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・とがちプラザ 指定管理者制度の導入(平成24年度～)、館内各機器修繕及び備品修理、とがちプラザ運営審議会の開催、広告事業等 ・図書館 図書館PR活動、サピエ図書館による録音図書の貸出開始、清流の里福祉センターに地域図書コーナーを設置 ・百年記念館 屋根等防水修繕、給水ポンプ取替、展示解説システム新設等 ・動物園 給水管更新工事(190.47m)、ブリーディングローンによるチンパンジーの出産等

平成29年度 施策評価表

総合計画体系	まちづくりの目標	6 生涯にわたる学びのまち	評価担当部	生涯学習部
	政策	6-2 ともに学び地域のきずなを育むまちづくり	関係部	
	施策	6-2-2 芸術・文化の振興		
	施策の目標	芸術・文化活動に参加できる環境づくりや芸術・文化にふれる機会の提供により、芸術・文化を振興します。		

1. 成果指標による判定

成果指標	単位	H28(実績) H28(目標)	判定	実績値の年次推移																																	
1 ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数	団体	276 269	a	<table border="1"> <caption>実績値の年次推移 (指標1)</caption> <tr><th>年度</th><td>H19</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H31</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>260</td><td>259</td><td>259</td><td>259</td><td>263</td><td>268</td><td>268</td><td>273</td><td>276</td><td>272</td></tr> <tr><th>目標値</th><td>260</td><td>260</td><td>260</td><td>260</td><td>260</td><td>260</td><td>260</td><td>260</td><td>269</td><td>269</td></tr> </table>	年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31	実績値	260	259	259	259	263	268	268	273	276	272	目標値	260	260	260	260	260	260	260	260	269	269
年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31																											
実績値	260	259	259	259	263	268	268	273	276	272																											
目標値	260	260	260	260	260	260	260	260	269	269																											
2 発表・活動の場への参加団体数	団体	99 62	a	<table border="1"> <caption>実績値の年次推移 (指標2)</caption> <tr><th>年度</th><td>H19</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H31</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>56</td><td>77</td><td>68</td><td>50</td><td>68</td><td>72</td><td>87</td><td>91</td><td>99</td><td>65</td></tr> <tr><th>目標値</th><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>56</td><td>62</td><td>62</td></tr> </table>	年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31	実績値	56	77	68	50	68	72	87	91	99	65	目標値	56	56	56	56	56	56	56	56	62	62
年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31																											
実績値	56	77	68	50	68	72	87	91	99	65																											
目標値	56	56	56	56	56	56	56	56	62	62																											
3 鑑賞事業の入場者数	人	27,963 38,000	d	<table border="1"> <caption>実績値の年次推移 (指標3)</caption> <tr><th>年度</th><td>H19</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H31</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>34,098</td><td>31,415</td><td>25,096</td><td>18,317</td><td>19,726</td><td>20,014</td><td>24,080</td><td>24,706</td><td>27,963</td><td>38,000</td></tr> <tr><th>目標値</th><td>34,098</td><td>34,098</td><td>34,098</td><td>34,098</td><td>34,098</td><td>34,098</td><td>34,098</td><td>34,098</td><td>34,098</td><td>38,000</td></tr> </table>	年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31	実績値	34,098	31,415	25,096	18,317	19,726	20,014	24,080	24,706	27,963	38,000	目標値	34,098	34,098	34,098	34,098	34,098	34,098	34,098	34,098	34,098	38,000
年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31																											
実績値	34,098	31,415	25,096	18,317	19,726	20,014	24,080	24,706	27,963	38,000																											
目標値	34,098	34,098	34,098	34,098	34,098	34,098	34,098	34,098	34,098	38,000																											
4 文化施設の利用者数	万人	53.4 60.0	d	<table border="1"> <caption>実績値の年次推移 (指標4)</caption> <tr><th>年度</th><td>H19</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H31</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>54.8</td><td>53.6</td><td>51.0</td><td>49.2</td><td>51.9</td><td>51.9</td><td>54.3</td><td>52.0</td><td>53.4</td><td>60.0</td></tr> <tr><th>目標値</th><td>54.8</td><td>54.8</td><td>54.8</td><td>54.8</td><td>54.8</td><td>54.8</td><td>54.8</td><td>54.8</td><td>54.8</td><td>60.0</td></tr> </table>	年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31	実績値	54.8	53.6	51.0	49.2	51.9	51.9	54.3	52.0	53.4	60.0	目標値	54.8	54.8	54.8	54.8	54.8	54.8	54.8	54.8	54.8	60.0
年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31																											
実績値	54.8	53.6	51.0	49.2	51.9	51.9	54.3	52.0	53.4	60.0																											
目標値	54.8	54.8	54.8	54.8	54.8	54.8	54.8	54.8	54.8	60.0																											
成果指標による判定			b																																		

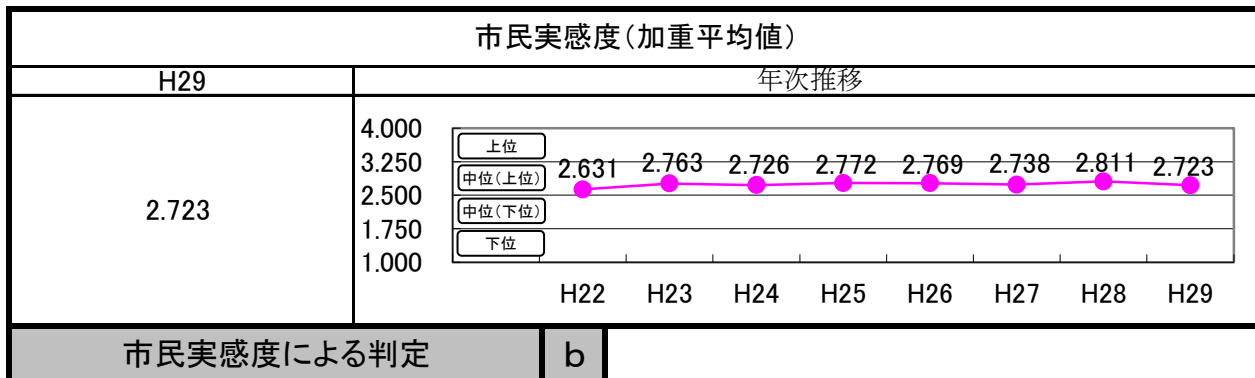
2. 成果指標の実績値に対する考え方

<p>「ホームページで芸術・文化活動を紹介する文化団体数」は、前年に比べ3団体増加し、目標値を上回りました。高齢化により活動を終了した団体があったものの、新たに活動した団体に積極的な登録を呼びかけたことが要因と考えます。</p> <p>「発表・活動の場への参加団体数」は、前年に比べ8団体増加し、目標値を達成しています。</p> <p>「鑑賞事業の入場者数」と「文化施設の利用者数」は、それぞれ目標値を下回っていますが、前年に比べ入場者数等が増加しています。これまでの情報発信等の取り組みによる効果と考えます。</p>

3. 市民実感度による判定

設問	芸術や文化に親しむことができる環境が整っている		0	25	50	75	100
	回答	H29					
		回答数	構成比				
1	そう思う	119	15.1%	15.1			
2	ややそう思う	359	45.7%	45.7			
3	あまりそう思わない	229	29.1%	29.1			
4	そう思わない	50	6.4%	6.4			
	無回答	29	3.7%	3.7			
	合計回答数	786	—				

上記の回答で3(あまりそう思わない)または4(そう思わない)を選んだ理由		H29	
		回答数	構成比
a	芸術・文化の発表や活動の場が少ないから	37	14.0%
b	芸術・文化に関する情報が十分でないから	90	34.0%
c	芸術・文化に親しむ時間がないから	98	37.0%
d	芸術・文化に関する指導者が少ないから	20	7.5%
e	その他	20	7.5%
有効回答数		265	—



4. 市民実感度調査結果に対する考え方

市民実感度は「そう思う」と「ややそう思う」の合計回答数の割合が60.8%となっており、中位(上位)にあります。芸術・文化活動に参加できる環境づくりが一定程度市民に評価されたものと考えます。

一方で「そう思わない」と「あまりそう思わない」を選んだ理由としては、「芸術・文化に親しむ時間がないから」の割合が最も多くなっています。この項目は年々増加傾向にあり、ライフスタイルの多様化や雇用機会の増加など芸術や文化に親しむ時間の確保が難しくなっている状況がうかがえます。

また、「芸術や文化に関する情報が十分でないから」が2番目に多くなっています。広報紙やホームページ、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等を活用して情報提供を行っているものの、市民に情報が十分に行き届いていないことが要因と考えます。

5. 施策の総合評価

成果指標による判定	b	市民実感度による判定	b
施策の成果を表す客観的なデータ(成果指標以外)			
<p>成果指標による判定、市民実感度による判定は、いずれも「b」判定となっています。</p> <p>施策の主な取り組みとしては、市民芸術祭や市民オペラ、市民バレエなど、市民主体の芸術文化活動の支援をはじめ、各文化施設における良質な芸術・文化に触れる鑑賞機会の提供など、多くの市民が身近に芸術・文化に親しめる環境づくりに取り組んでいます。</p> <p>目標値に達していない成果指標もありますが、こうした取り組みにより、全ての成果指標が前年を上回るなど、一定の成果が上がっているものと考えます。</p> <p>以上の状況を総合的に勘案し、施策は目標に向かって、ある程度すすんでいると評価します。</p>			
目標に向かって、ある程度すすんでいる		B	

6. 施策の課題と今後の取り組み方向

課題	<p>これまでの取り組みにより、成果指標の実績値が増加傾向にあるなど、一定の成果が上がっていますが、市民実感度調査の結果から、芸術・文化に関する情報が市民に十分に行き届いていないことが課題となっています。</p> <p>また、芸術・文化活動の団体数は増加しているものの、各団体の構成員が少人数化しているなど、担い手の確保や人材育成がすすんでいないことが課題となっています。</p> <p>加えて、一部の施設で老朽化がすすみ設備等の更新時期を迎えていることから、利用者の安全確保をはかるとともに、施設機能の維持に向けた取り組みをすすめていくことが求められています。</p>
今後の取り組み方向	<p>幅広く市民に情報が届くよう、様々なメディアの活用をはじめ、活動団体による地域への声かけ、地域の方が利用する施設でのポスター掲示など、地域コミュニティを通じた芸術・文化情報の発信を引き続き行っていきます。</p> <p>また、市内で活動している団体の活動規模を確保するため、合同練習や合同発表、団体の合併、指導者の確保などに関する情報交換ができる機会や情報収集の手法について検討していきます。</p> <p>さらに、将来にわたり施設機能が効果的に発揮できるよう、施設状況等を把握しながら適正な維持管理に努めます。</p>

(参 考) 基本事業の取り組み内容

基本事業名	平成28年度の実績
(1) 市民主体の芸術・文化活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・第35回おびひろ市民芸術祭(17,007人) ・第13回北の構図展(1,144人) ・帯広市青少年芸術文化活動派遣研修補助金(9件) ・市民文藝第56号の発行(応募者数102人、1,158作品) ・とちかちジュニア文芸第7号発行(応募者数314人、344作品) ・ジュニア向け小説・童話等の文章教室参加人数(11人)
(2) 鑑賞機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術文化鑑賞機会の充実 第35回おびひろ市民芸術祭(17,007人)、ベルリン交響楽団帯広演奏会(1,074人)、ハロー！ミュージカル プロジェクト「南太平洋」(936人)、弦巻楽団「果実」(222人)、WAHAHA本舗実験コメディ劇場「名もなく、貧しくもなく、美しくもなく」(311人)、ディズニー・オン・クラシック「まほうの夜の音楽会2016」(1,013人)、デフ・パペットシアター・ひとみ「森と夜と世界の果てへの旅」(308人)、よしもとお笑いまつりinおびひろ(1,503人)、地元アーティスト公演事業 石黒みゆき津軽三味線コンサート～縁～(540人)、札幌交響楽団特別演奏会(764人)、帯広市民文化ホールロビーコンサート(20人)、帯広美術館特別企画展 篠山紀信展「写真力」(25,870人) ・子どもたちの文化活動の促進 きかんしゃトーマスファミリーミュージカル「ソドー島のたからもの」(2,027人)、人形劇団むすび座「ピノキオ」(583人)、第28回親と子のわくわく音楽会(1,124人)、幼児向けプチコンサート「楽しいおやこあそび」(131人)、第1回帯広少年少女合唱祭(400人)、劇団四季鑑賞事業「エルコスの祈り」(1,476人)
(3) 文化施設の整備・管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度施設利用状況 市民文化ホール(332,443人) グリーンステージ(156,150人) 市民ギャラリー(45,733人) ・市民文化ホールにおける非常用蓄電池設備の更新 ・市民ギャラリーにおける冷暖房機室内機ファンモーターの修繕

平成29年度 施策評価表

総合計画体系	まちづくりの目標	6 生涯にわたる学びのまち	評価担当部	生涯学習部
	政策	6-2 ともに学び地域のきずなを育むまちづくり	関係部	
	施策	6-2-3 スポーツの振興		
	施策の目標	スポーツに親しむことができる環境づくりや各種大会の開催、スポーツの拠点づくりなどをすすめ、スポーツを振興します。		

1. 成果指標による判定

成果指標	単位	H28(実績) H28(目標)	判定	実績値の年次推移																																	
1 スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数	人	68,745 87,000	d	<table border="1"> <caption>実績値の年次推移 (参加者数)</caption> <tr><th>年度</th><td>H19</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H31</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>35,677</td><td>44,613</td><td>70,414</td><td>73,561</td><td>84,258</td><td>96,134</td><td>92,135</td><td>96,705</td><td>68,745</td><td>87,000</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31	実績値	35,677	44,613	70,414	73,561	84,258	96,134	92,135	96,705	68,745	87,000	目標値										
年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31																											
実績値	35,677	44,613	70,414	73,561	84,258	96,134	92,135	96,705	68,745	87,000																											
目標値																																					
2 総合型地域スポーツクラブの設置数	か所	5 6	b	<table border="1"> <caption>実績値の年次推移 (設置数)</caption> <tr><th>年度</th><td>H19</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H31</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td><td>8</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31	実績値	2	3	3	3	3	3	4	5	5	8	目標値										
年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31																											
実績値	2	3	3	3	3	3	4	5	5	8																											
目標値																																					
3 各種スポーツ大会の観客数	万人	19.3 20.8	c	<table border="1"> <caption>実績値の年次推移 (観客数)</caption> <tr><th>年度</th><td>H19</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H31</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>16.0</td><td>17.3</td><td>20.5</td><td>20.5</td><td>20.8</td><td>23.1</td><td>22.8</td><td>20.9</td><td>19.3</td><td>20.8</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31	実績値	16.0	17.3	20.5	20.5	20.8	23.1	22.8	20.9	19.3	20.8	目標値										
年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31																											
実績値	16.0	17.3	20.5	20.5	20.8	23.1	22.8	20.9	19.3	20.8																											
目標値																																					
4 スポーツ合宿団体数	団体	227 200	a	<table border="1"> <caption>実績値の年次推移 (団体数)</caption> <tr><th>年度</th><td>H20</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H31</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>150</td><td>190</td><td>200</td><td>215</td><td>212</td><td>221</td><td>214</td><td>222</td><td>227</td><td>200</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31	実績値	150	190	200	215	212	221	214	222	227	200	目標値										
年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31																											
実績値	150	190	200	215	212	221	214	222	227	200																											
目標値																																					
5 スポーツ施設の利用者数	万人	124.1 128.6	b	<table border="1"> <caption>実績値の年次推移 (利用者数)</caption> <tr><th>年度</th><td>H19</td><td>H21</td><td>H22</td><td>H23</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H27</td><td>H28</td><td>H31</td></tr> <tr><th>実績値</th><td>114.8</td><td>126.6</td><td>132.0</td><td>136.8</td><td>139.0</td><td>137.0</td><td>136.5</td><td>137.0</td><td>124.1</td><td>128.6</td></tr> <tr><th>目標値</th><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31	実績値	114.8	126.6	132.0	136.8	139.0	137.0	136.5	137.0	124.1	128.6	目標値										
年度	H19	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H31																											
実績値	114.8	126.6	132.0	136.8	139.0	137.0	136.5	137.0	124.1	128.6																											
目標値																																					
成果指標による判定			b																																		

2. 成果指標の実績値に対する考え方

「スポーツ大会、スポーツ教室・講習会の参加者数」は、前年に比べ27,960人減少し、目標値を下回りました。帯広競馬場南側運動広場の廃止に伴い、一部の総合型地域スポーツクラブが活動を休止したことなどにより、スポーツ教室・講習会の開催回数が減少したことが要因と考えます。

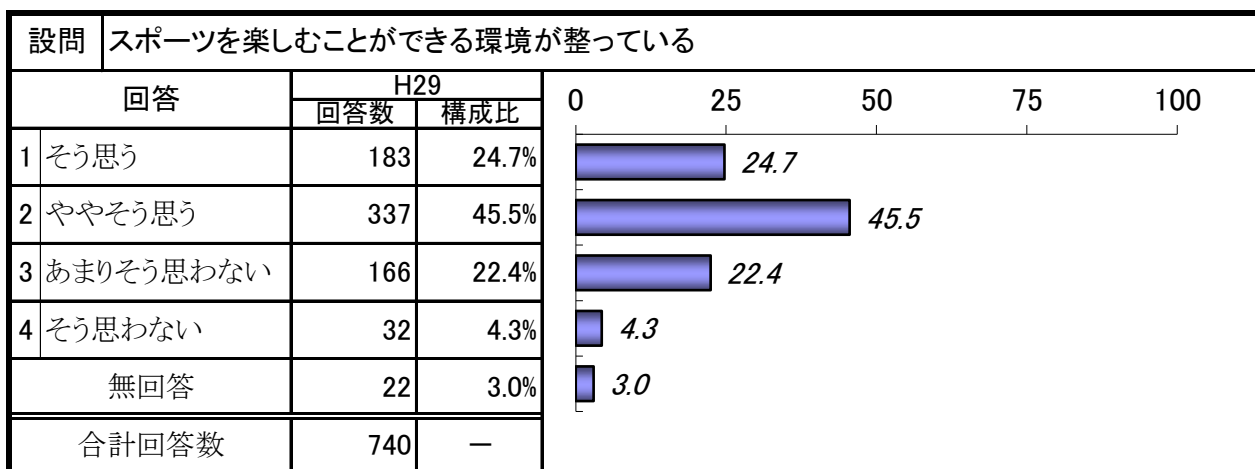
「総合型地域スポーツクラブの設置数」は、前年と同数となり目標値を下回りました。クラブ設立に向けて中心となる人材が不足していることが要因と考えます。

「各種スポーツ大会の観客数」は、前年に比べ1.6万人減少し、目標値を下回りました。2017冬季アジア大会のスピードスケート競技が開催されたものの、プロ野球公式戦の開催日数が減少したことが要因と考えます。

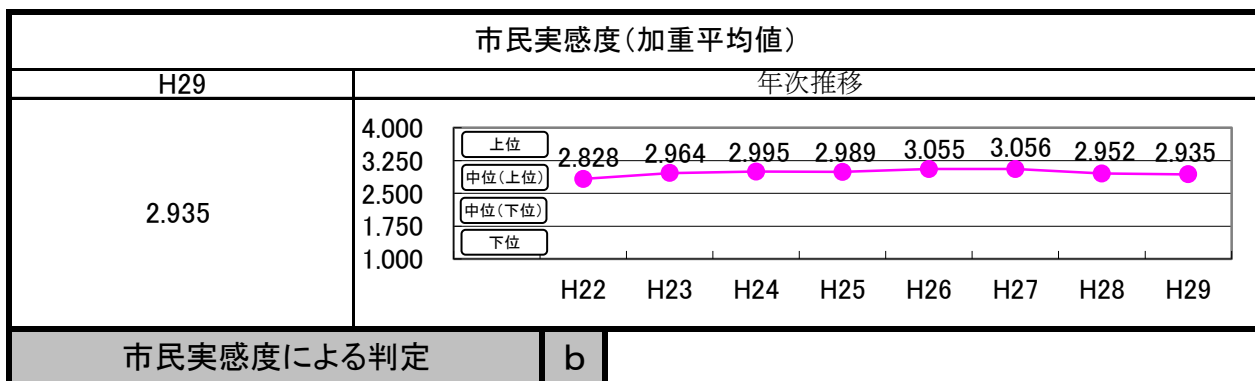
「スポーツ合宿団体数」は、前年に比べ5団体増加し、目標値を上回りました。明治北海道十勝オーバルのナショナルトレーニングセンター指定に伴うスケート合宿が順調であるほか、これまで東日本大震災により東北地方や北関東地方で合宿を実施できない団体などの受け入れに、地域を挙げて取り組んだことが要因と考えます。

「スポーツ施設の利用者数」は、前年に比べ12.9万人減少し、目標値を下回りました。昨年の台風の影響により十勝川と札内川の河川敷運動施設を閉鎖したことが要因と考えます。

3. 市民実感度による判定



上記の回答で3(あまりそう思わない)または4(そう思わない)を選んだ理由		H29	
		回答数	構成比
a	スポーツに親しむことができる機会が少ないから	55	29.4%
b	スポーツ教室・講習会などに魅力がないから	12	6.4%
c	スポーツ施設が利用しにくいから	90	48.1%
d	一流選手が出場する大会などが少ないから	16	8.6%
e	その他	14	7.5%
有効回答数		187	—



4. 市民実感度調査結果に対する考え方

市民実感度は、「そう思う」と「ややそう思う」の合計回答数の割合が70.2%となっており、中位(上位)にあります。日本クラブユースサッカー選手権やフットバレーとからマラソン大会など継続的な全国レベルの大会も増え、市民がスポーツを観戦し、楽しむきっかけを提供できていることや、明治北海道十勝オーバル、統合プールなどが整備され、一年を通してスポーツに親しむ環境が整っていることが一定程度市民に評価されたものと考えます。

一方で、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を選んだ理由としては、「スポーツ施設が利用しにくいから」の割合が最も多くなっています。主要なスポーツ施設が「帯広の森」に集中し、交通アクセスが不便であると受け止められていることが要因として考えられます。

5. 施策の総合評価

成果指標による判定	b	市民実感度による判定	b
施策の成果を表す客観的なデータ(成果指標以外)	帯広市内で開催された全国・全道大会の数(平成28年度) 帯広市体育連盟加盟団体の登録者数(平成28年度)		
<p>成果指標による判定、市民実感度による判定は、いずれも「b」判定となっています。</p> <p>施策の主な取り組みとしては、フードバレーとかちマラソン大会やスポーツフェスティバルの開催をはじめ、小中学校体育館や統合プールなどの学校開放事業、スポーツ教室の開催、スポーツ大会・合宿の誘致、スポーツに関わる人材の育成などに取り組んでいるほか、全道・全国・国際大会の誘致にも取り組んでいます。</p> <p>こうした取り組みにより「帯広市内で開催された全国・全道大会の数」は前年に比べ14大会増加し58大会となったほか、「帯広市体育連盟加盟団体の登録者数」も前年に比べ1,024人増加し50,279人となっています。</p> <p>昨年の台風の影響による十勝川と札内川の河川敷運動施設の閉鎖や帯広競馬場南側運動広場の廃止により、スポーツ施設の利用者数やスポーツ教室・講習会の参加者数は減少しましたが、市民実感度からはフードバレーとかちマラソンなどの継続的な全国レベルの大会が増えたことなどにより、スポーツに親しむことができる環境づくりがすすんでいると評価されていることがうかがえます。</p> <p>以上の状況を総合的に勘案し、施策は目標に向かって、ある程度すすんでいると評価します。</p>			
目標に向かって、ある程度すすんでいる		B	

6. 施策の課題と今後の取り組み方向

課題	<p>明治北海道十勝オーバルが整備され、スケート競技の環境整備がはかられてきたものの、スケート競技人口が減少傾向にあることが課題です。</p> <p>また、明治北海道十勝オーバルにおける平成28年度のスケート利用者数と大会観覧者数の合計は99,382人で前年と比較しても横ばいの状況となっており、供用開始時点の目標である126,600人に達していないことが課題となっています。</p>
今後の取り組み方向	<p>幼少期からスケート競技に親しむことができる機会の充実に努めるほか、多くの市民がスケート競技に触れ、楽しむことのできるきっかけづくりに取り組んでいきます。</p> <p>また、明治北海道十勝オーバルのほか、2020年3月に供用を開始する予定の新総合体育館など市内体育施設を活用した全道・全国・国際大会やスポーツ合宿の誘致に取り組んでいきます。</p>

(参 考) 基本事業の取り組み内容

基本事業名	平成28年度の実績
(1)スポーツ活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室、講習会の開催数(145回) ・少年団指導者認定講習会の開催数(2回) ・ホームページの項目数(15項目) ・総合型地域スポーツクラブの数(5団体) ・スポーツ少年団登録数(79団体 1,766人)
(2)スポーツを通じた にぎわいと交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・明治北海道十勝オーバル利用大会開催数(42大会) ・日韓競技大会開催種目数(2種目) ・スケートキングダム開催回数(5回) ・合宿誘致団体数(227団体) ・プロスポーツ大会(3回) ・日本クラブユースサッカー選手権大会継続開催(6年連続) ・フードバレーとかちマラソン大会開催(5回目) ・冬季アジア札幌大会帯広会場(スピードスケート競技開催)
(3)スポーツ人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の講習会、研修会開催数(3回) ・大会派遣補助(210件 898人) ・体育連盟加入団体(45団体 50,279人) ・ほっとドリームプロジェクト(競技者の育成事業5回・底辺の拡大事業6回)
(4)スポーツ施設の整備・ 管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設の利用者数(124.1万人) ・市民協働によるパークゴルフ場の整備(12PG同好会) ・明治北海道十勝オーバル広告(16社) ・帯広の森野球場広告(20社) ・新総合体育館整備運営事業・事業契約締結 ・帯広の森市民プール監視装置取替修繕